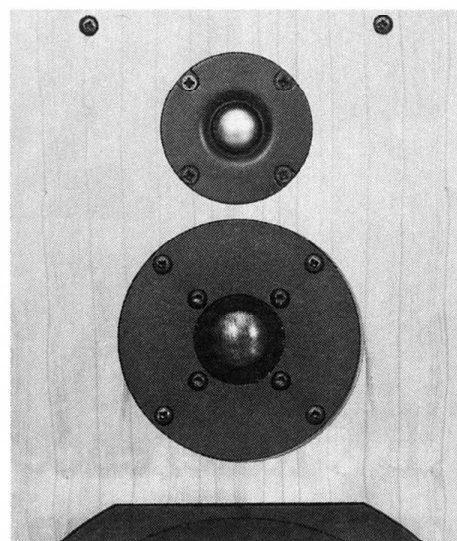


1988年発表の同社「HL5」の改良型という位置づけだが、ハーベス初となるスーパートウイーターの採用に顕著なように、かなりの改革・改良が具体化されている。スムーズな音波放射とフラットな周波数特性をもたらすフロントグリル「Super Grille」は、基本的には装着したままの使用となる。ひと昔前のスピーカーを思い起こさせる無骨なエンクロージャも、実は「Super Tuned Structure」と呼ばれる不要共振を抑える構造である。



意外だが、ハーベス初のスーパートウイーターは20mm口径カスタムメイド・チタニウム・ハードドーム型。10kHz以上の超高域までカバーすることが出来る。トゥイーターは25mmアルミニウム・ハードドーム型。

# Harbeth Super HL5

## ハーベス Super HL5

¥438,900pair (税込)

●型式：バスレフ ●使用ユニット：[W]20cm[T]2.5cm[ST]2.0cm ●周波数特性：40Hz~24kHz (±3dB) ●クロスオーバー周波数：3.5kHz、10kHz ●インピーダンス：8Ω ●入力端子：バイワイヤリング、バナナプラグ対応 ●大きさ：323W×635H×305mm ●重さ：16.8kg ●問い合わせ先：エムプラス コンセプト ☎045(845)7639

オリジナルは2ウェイだったが、本機は10kHz以上を受け持つスーパートウイーターを付加した3ウェイ構成。能率は低めだ。スーパートウイーターの付加は明らかに成功している。バイオリンの基音の伸び、倍音の豊かさがあるからだ。これにともなって音場空間の拡大も感じられる。ピアノはなかなかの高密度。損失感のない音である。ワイドバンド仕様なので、定位もピタリと決まってくる。大きな編成でも、ブックシェルフとは言え内容積50ℓのキャビネットもゆったりとしている。割合に保守的だったハーベスが、現代ソースに目を向けている点に好感を持った。SACD再生はウェルバランス。低域もしっかり。オリジナルよりもはるかにワイドバンドである。●藤岡

イギリスのスピーカーメーカーの名門の一面をなす同社らしい、堅実さを感じさせるブックシェルフ型としてのサイズ、また作りだが、同社初のスーパートウイーターの採用と、音の透過性に吟味を尽くした「スーパーグリル」の採用が大きな挑戦である。同社らしいナチュラルで温かい感触のサウンドだが、力強さを秘めた量感充分な低域と、従来よりもつややかで生き活きた表情を聴かせる高域が印象的かつ魅力的。音場は温かく奥深く展開する。強調感のない自然な感触のピアノや撥弦楽器のアタック、つややかであって肉声の温かみを聴かせる歌、木管の温かみがしみるケーナ、伸びやかに展開するオーケストラなど、音楽の自然な表情が素晴らしい。●神崎

